



**エンジン内部を洗浄することで圧縮圧力が復活
 パワーは約3馬力、トルクは0.5kgmもアップした
 ファイリングだつてよくなるわけではないわけがない!**

オーバーホールしたばかりだしけつして調子は悪くない……でもエンジンを分解しないでコンディションが復活すると聞いたならぜひぜひ試してみたくなくなりました!

**オーバーホールをする前に
 エンジン系ケミカルを試してみよう**

エンジンの調子が悪くなつたらまず何を疑う? プラグ、燃料ポンプ&フィルター、プラグコードなどなど、点火&燃料系を中心にチェックすることになる。それでもダメなら……、最後はエンジンのオーバーホールしか方法はない。「オーバーホールするお金をどこから捻出しよう?」。頭を悩ませているオーナーに朗報です! ニューテックが提案する、「パワーアッププログラム」を試してみてもいいかな?

前号で簡単にそのアイテムと施工手順を紹介したが、今号で実際に施工し、パワー&トルク計測とコンプレッションチェック、さらにインプレッションを行ってみる。結果から報告すると、まずパワー&トル

クともアップ。FCONISにてセッティングしたばかりなので、これ以上の性能アップは期待できないと考えていたけど、かなり驚きました。とくにクラッチをつないだ瞬間から、街なかで常用する3000、4000回転でのトルク感がアップ! なんだかクルマが軽くなったファイリングです。4040号よりもっと距離を走ったクルマだつたら……、エンジンオーバーホールに近いくらいの威力を発揮してくれるのではないだろうか?

最近エンジンの調子が悪いって人は、ニューテックのホームページから施工シヨップを検索、もしくは取材協力してもらったガレージホリノに問い合わせしてみよう。

おすすめポイントはココだ!

NAオーナーはもちろん、NBオーナーもそろそろエンジンのオーバーホールを考えなくてはいけないはず。そんなとき、検討してもらいたいのがこのニューテックのパワーアッププログラムなんだ。安くて簡単に調子が戻る、この手軽さが最大の特徴だろう。パワー&トルクだけじゃなく、燃費やエンジン音も変わるぞ。

- 自分で施工できる手軽な洗浄アイテム
- オーバーホールをにに近いメニューをエンジンケミカルで行える
- 手頃な価格でコンディションが復活する
- パワー&トルクが向上
- 施工したら長時間、効果が持続する



施工&計測協力: ガレージホリノ
 神奈川県秦野市堀山下420-2 ☎0463-87-0847



最後に登場する「コンプレッションブースト for エンジン」は、洗浄した燃焼室内部の状態をキープするためのコーティング剤のようなもの。金属面の摩耗部分に入り込み、しっかりコーティングしてくれるので、コンプレッションまで復活するというすぐれものだ。



次のステップで登場するのが、燃焼室内やピストントップに溜まったカーボンを除去するための洗浄剤「NC-900リ・パワーカーボンリムーバー」だ。プラグ穴から泡状の施工液を注入するタイプなので、エンジンの分解や脱着を行わないでエンジン内部を洗浄できるぞ。



まず始めに行いたいのが、燃料系に溜まったスラッジの洗浄だ。右のスラッジリムーバー&フューエルブーストは、ガソリンタンクに注入するだけ。左のキャブレター&インジェクションクリーナーは、スロットル付近にスプレーするだけ、と非常に簡単に施工可能。



STEP3 燃焼室をコーティング

STEP2 燃焼室を洗浄

STEP1 フューエル系を洗浄

作業工程

● コンプレッションチェック

ニューテックのパワーアッププログラムを施工すると、どれくらいエンジン内部の状態は復活するのを目安として、コンプレッションを計測してみた。施工前の計測では4番気筒がちょっと低かったが、とくに問題ない数値だった。だが施工してみると……、全体的に上がったうえ、低かった4番気筒が見事復活したのだ。



コンプレッションの計測結果は、下の表で確認してほしい。たった1~2時間の施工で復活するには驚いた。



プラグ穴から細いホースを差し込んで施工液を注入。面倒なのが、クランクを回して上死点を合わせるところだ。



● 洗浄能力をテスト

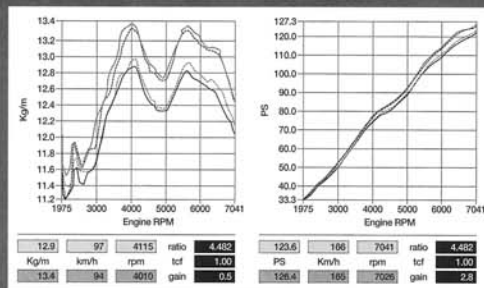
エンジン内部だと見えないので、確認しやすいプラグを洗浄してみました。結果は下の比較写真のとおり！ パーツクリーナーなどを吹きかけてブラシでゴシゴシしてもなかなか落ちなかったガンコな汚れが、ちょっと施工液につけて10分~15分くらい放置しただけでここまでキレイになりました。この威力がエンジン内部でも発揮されていると考えたら……、どれだけキレイになるかが容易に想像できるってもんでしょ。



注目はプラグの先端の汚れ。火花が発生する部分だけに、この汚れは燃焼状態に大きく影響する。寒い日の朝、エンジンが元気づく目覚めるようになること間違いなしだ。

走行距離2万kmでもかなり差が出た！

施工前は、「オーバーホールしてから2万kmしか走っていないし、もしかしたら差が出ないかも？」なんて心配していたが、結果は下のグラフのとおり。パワーは3800回転付近から約3馬力アップ、トルクは2500回転付近から上乗せされ、ピークで0.5kgmもアップした。



	施工前	施工後
1番	14.0kg/cm ²	14.8kg/cm ²
2番	13.8kg/cm ²	15.2kg/cm ²
3番	13.6kg/cm ²	14.8kg/cm ²
4番	13.0kg/cm ²	15.2kg/cm ²

左の表は、施工前後のコンプレッションの計測結果だ。注目は4番気筒で、施工することで見事に復活！ 4気筒とも均一なコンプレッションとなっている。

ニューテックジャパン ☎045-628-2055
ホームページ: <http://www.nutec-japan.com/>

● 施工液はカーボンだらけだった

たいして汚れていないと思われた4040号のエンジンだったが、施工液をホースで抜き取ってみると……、なんと大量のカーボンが！ ピストントップやバルブまわりにカーボンが蓄積されると、燃焼効率の低下はもちろん、ノッキング発生にもつながってしまう。「最近愛車の調子が……」と感じたら、ぜひ施工をオススメしたい。

正直、ここまで大量のカーボンが出るとは想像していませんでした。後日オイル交換をしたら、オイルフィルターにも付着していたので2度ビックリ！

